

信州大学附属図書館ウェブサイトリニューアルの取組み

徳 永 澄 子 （信州大学附属図書館）

1. はじめに

信州大学附属図書館では平成 28 年 10 月 27 日にウェブサイトのリニューアルを行なった。リニューアルの詳細について報告する。

リニューアル以前の附属図書館ウェブサイト（以下、「旧サイト」）は、平成 20 年度（2008 年 12 月 24 日）から運用を開始した。当時、大学の広報・情報室の主導のもと信州大学ホームページの統一化が行なわれ、それまで学内に分散して運用されていた学部等の部局ごとのウェブサイトのウェブサーバを統合し、大学全体でコンテンツ管理システム（以下、「CMS」）を導入した。附属図書館のウェブサイトも、それ以前は附属図書館や学部図書館でウェブサーバを運用していたが、このときに大学全体の CMS 上に移行した。CMS が導入されたことにより、ウェブサイト構築の知識に長けた担当者ではなくても簡便に更新が行なえる上、大学全体や他部局のウェブサイトとデザインや部局カラーが統一されて見た目も向上した。また、附属図書館全体、各学部図書館のサイトもデザインや発信される内容が統一されたことにより、より分かりやすく情報発信できるようになった。

しかし、運用開始から 8 年が経過し改めてウェブサイトを眺めると、ユーザーのデバイスの変化や新しいウェブサービスの登場といった外的要因のほか、附属図書館が提供する資料やサービスの増加という内的要因から、利用が多いコンテンツや新しい資料やサービスが分かりにくいのではないかという課題がみえた。特に後者は、この 8 年の間に電子ブックの導入タイトルの増加やデジタルアーカイブの作成、ラーニング・コモンズの設置、ラーニング・アドバイザーによる学生への学修支援など、附属図書館が提供する資料やサービスが増えたが、それらの新しく導入した資料群やサービスがウェブサイトを通じて対象者へ効果的に情報発信されているかという点には疑問があった。今回のリニューアルではこれらの課題に取り組んだ。

2. ウェブサイトリニューアルのコンセプトと体制

附属図書館ウェブサイトのリニューアルにあたっては、学内経費である平成 28 年度戦略的経費⁽¹⁾を申請し、リニューアルの資金として活用した。新しいウェブサイト（以下、「新サイト」）へのリニューアルは、平成 28 年 6 月から普段ウェブサイトの更新をする附属図書館ウェブ担当者（以下、「ウェブ担当者」）が中心となり、新サイトのコンセプトやデザインの検討を行なった。

また、学生に対して学修支援を行なっているラーニング・アドバイザーの大学院生から意見を得た。次の点が今回のリニューアルの目標である。各項目についてどのように対応を行なったか記載する。

- ①学生の主体的・協働的な学びをサポート
 - ・学生による授業外学修や主体的・協働的な学びをサポートするコンテンツを整備する
 - ・学生が活用しやすい課題解決型のウェブサイト構築する
- ②図書館が提供する各種資源の案内
 - ・図書館が提供する各種資源（知識・情報・空間・人的サービス）とその活用方法を分かりやすく紹介したコンテンツを整備する
- ③スマートフォン・タブレット端末対応
 - ・スマートフォンやタブレット端末での利用に対応したデザインにより再構築する

3. 新ウェブサイトの構成・レイアウト・コンテンツ

3-1. 学生の主体的・協働的な学びをサポート

図書館ごとに状況は異なるが、附属図書館では共同学習できるスペース、学生が学生を支援するラーニング・アドバイザーによる支援など、学生の主体的・協働的な学びをサポートする取り組みを行なっている。ウェブサイト上でもこれを後押しするコンテンツを用意することによって、より一層学習支援の環境を整備したいという意図から、次のコンテンツを作成した。

□「〇〇図書館でできること」

「〇〇図書館でできること」は学生が抱える課題の解決を支援するためのコンテンツであり、各図書館で「できること」を掲載するものである。ユーザーが知りたいことを解決するコンテンツは、例えば、「よくある質問」や「Q&A」の形式で提供しているのを目にすることが多いが、学生が自身の学習において課題に直面し、その解決の糸口を図書館に期待してウェブサイトを訪れたときに、「自身の抱える課題を解決するヒントが見つかるのではないか」と想像できるようなタイトルにした。学生が持つ図書館に対するイメージと、図書館が提供している資料や施設、サービスとの間にあるギャップを埋めることを期待している。「〇〇図書館でできること」から、ウェブサイト内に一覧的に掲載されている資料や施設、サービスの案内ページに誘導する形をとっている。これは、今後展開できるものと考えており、新しい資料や施設、サービスが提供されるようになったときにこの枠組みから情報発信をしたい。また、今は施設やサービスの紹介が主だが、学生が抱える具体的な課題の各テーマにそった資料群を紹介することも可能であるし、学生を支援するコンテンツを新たに作成した際にここからも情報発信できるのではと考えている。

3-2. 図書館が提供する各種資源への案内

新サイトの構成やレイアウトは、図書館が提供する知識・情報・空間・サービスを改めて整理することから始め、スマートフォンでの操作性にも配慮しながら検討を行なった。

新サイトの構成や附属図書館、各学部図書館のトップページのレイアウトは次の点を考慮した。まず、利用者がよく利用する案内やサービスは大きく分かりやすい位置に配置にした(図1-①・図2-①)。次に、目的別にメニューを設け、それぞれの目的でウェブサイトを訪れた人を誘導しやすくした(図1-②・図2-②)。さらに、本学ではキャンパスごとに図書館を設けていることから、利用者はそれぞれ特定の図書館を利用することが多いと予想される。附属図書館トップページでは各図書館のサイトへの誘導を行い(図1-④)、利用者は各図書館のサイトを参照すれば必要な情報が得られるようにサイトを構築した。具体的には、各図書館のサイトでは、各図書館の固有の情報のほかに、附属図書館全体で提供している情報(お知らせ(図1-③・図2-③)、学術情報データベースや電子ジャーナル・電子ブックの案内など)を表示している。このことにより、附属図書館全体のページと学部図書館のページを行き来する必要がなくなる。

上記を考慮し、各図書館のトップページのレイアウトを決めた。



図1 附属図書館トップページ



図2 学部図書館トップページ

□ トップページ (図1)

・「蔵書検索」、「My Library」へリンク (図1-①)

- ・目的別メニュー「資料を探す」、「図書館を使う」、「学外の方へ」、「信大図書館について」(図1-②)
- ・「お知らせ」(図1-③)
- ・「図書館を選ぶ」から学部図書館サイトへリンク(図1-④)

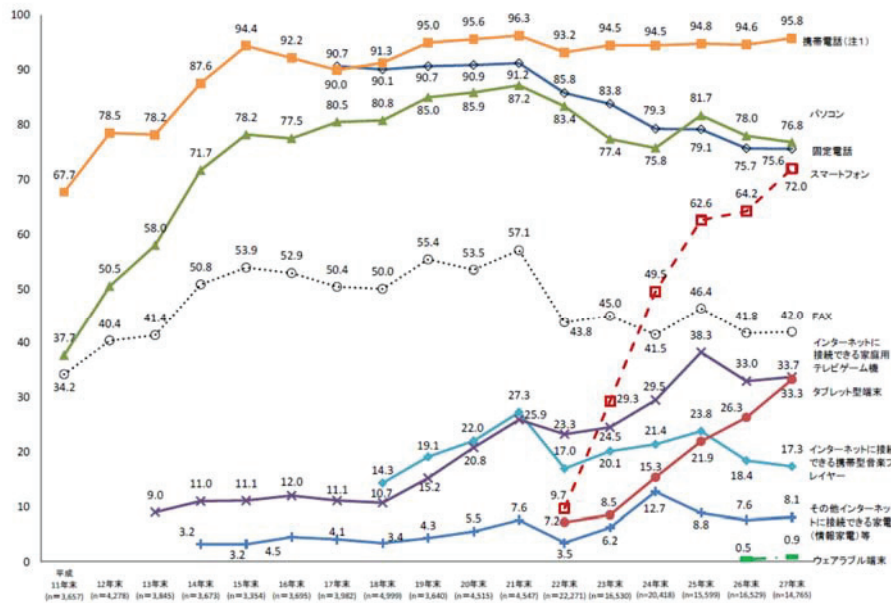
□ 学部図書館トップページ(図2)

- ・「開館情報」、「蔵書検索」、「Publication Finder」、「My Library」へリンク(図2-①)
- ・目的別メニュー「資料を探す」、「図書館を使う」、「学外の方へ」(図2-②)
- ・「お知らせ」(図2-③)

3-3. スマートフォン・タブレット端末対応

リニューアルでは、スマートフォン・タブレット端末での閲覧に対応することを目的のひとつとした。総務省「通信利用動向調査」(図3)⁽²⁾によると、世帯のスマートフォンやタブレット型端末の保有率は、平成22年調査で初めて調査項目に現れ、スマートフォン9.7%、タブレット型端末7.2%であった。最新の平成27年調査ではスマートフォン保有率は72.0%、タブレット型端末保有率は33.3%と、この期間に普及が進んだことがわかる。

図表1-12 情報通信機器の保有状況の推移(世帯)



(注) 1. 「携帯電話」にはPHSを含み、平成21年末から平成24年末までは携帯情報端末(PDA)も含めて調査し、平成22年末以降はスマートフォンを内数として含めている。
 2. 経年比較のため、この図表のみ無回答を含む形で集計。

図3 「情報通信機器の保有状況の推移(世帯)」 出典：総務省「通信利用動向調査 平成27年」

旧サイトが運用開始した平成 20 年度当時とはユーザーのインターネットの利用デバイス環境が大きく変わっており、ユーザーの利便性を考え、リニューアルではスマートフォン・タブレット端末に対応したい事項であった。

このため、新サイトはデバイスの画面サイズに応じて表示を変えることができるレスポンシブ・ウェブデザインで製作した。レスポンシブ・ウェブデザインのメリットは、HTML コードを各デバイス毎にそれぞれ用意する必要がなく、管理する HTML コードはひとつのため管理がしやすいことである。デバイスの画面サイズの横幅によって、パソコン用、タブレット端末用(960px 以下)、スマートフォン用(767px 以下)の 3 種類のデザインを作成した。スマートフォンでの使いやすさを考慮し、スマートフォンでよく利用されると予想したコンテンツを大きく配置することとした。

4. 新サイトの利用状況

リニューアル後の附属図書館ウェブサイトの利用状況について、アクセス数⁽³⁾(平成 28 年 11 月 16 日～平成 29 年 1 月 15 日の 2 ヶ月間)を前年の同期間と比較する。デバイス別のアクセス数は、desktop からの利用が 71.61%と最も多く、ついで mobile からの利用が 26.34%である。各デバイスともセッション数が前年と比較し減っているが、デバイス別の割合では、mobile からのセッションが前年 24.6%だったのが 26.4%に、tablet からのセッションが前年 1.99%だったのが 2.05%にわずかながら割合を増やしているため、スマートフォン・タブレット端末対応にある程度効果があったと考えられる。

表1 附属図書館ウェブサイト セッション数(デバイス別)

期間:2016/11/16-2017/1/15 (前年同期間との比較)

	デバイス カテゴリ	セッション		直帰率	ページ/ セッション	平均セッ ション時間
1	desktop					
	リニューアル後 2016/11/16 - 2017/01/15	19,033	71.61%	55.60%	2.52	0:02:37
	リニューアル前 2015/11/16 - 2016/01/15	23,692	73.39%	59.99%	2.02	0:02:23
	変化率	-19.66%		-7.32%	24.61%	9.87%
2	mobile					
	リニューアル後 2016/11/16 - 2017/01/15	7,002	26.34%	63.40%	2.06	0:01:09
	リニューアル前 2015/11/16 - 2016/01/15	7,949	24.62%	68.84%	1.69	0:01:10
	変化率	-11.91%		-7.91%	21.98%	-1.00%
3	tablet					
	リニューアル後 2016/11/16 - 2017/01/15	544	2.05%	60.85%	2.6	0:01:21
	リニューアル前 2015/11/16 - 2016/01/15	642	1.99%	59.81%	2.36	0:01:54
	変化率	15.26%		1.73%	10.22%	-28.62%
計						
	リニューアル後 2016/11/16 - 2017/01/15	26,579		57.76%	2.40	0:02:12
	リニューアル前 2015/11/16 - 2016/01/15	32,283		62.17%	1.94	0:02:04
	変化率	-17.67%		7.09%	23.29%	6.42%

Google Analyticsによるアクセス解析

また、サイト全体のセッション数は 26,579 で前年の同期間と比較すると-17.7%であったが、1 ページしか閲覧されなかったセッションの割合である直帰率が、前年比 7.09%の改善をしていること、ページビュー数をセッション数で割った訪問別ページビュー数が、前年比 23.29%と改善をしていることが分かった。訪問別ページビュー数が増えて、セッション数は減ったのは、リニューアルでウェブサイトのデザインを変えたことにより、必要な情報を見つけやすくなり、サイトに立ち寄ってもすぐに帰る人が減ったとも考えられる。サイト構成上の問題が解決され、必要な情報が探しやすいデザインになったと考えたい。

5. 最後に

平成 28 年 10 月 27 日に行った信州大学附属図書館ウェブサイトのリニューアルに関して、新サイトのコンセプトやリニューアル実施体制、新サイトの構成やレイアウトを決定した経緯をこのとおり報告する。今回のリニューアルにあたっては、約半年の準備期間にも関わらず検討や細かい作業を行なってくれた各図書館のウェブ担当者やご尽力いただいた関係者の方に心より感謝する。これからも図書館の利用者に求める情報を適切に届けられるよう継続的にコンテンツの拡充をしていきたい。

注

(1) 平成 28 年度戦略的経費「学生の主体的・能動的学修（アクティブ・ラーニング）の基盤となる課題解決型 Web サイトを活用した学修支援体制の充実」

(2) 総務省「平成 27 年通信利用動向調査の結果（概要）」p.7 「図表 1-12 情報通信機器の保有状況の推移（世帯）」http://www.soumu.go.jp/main_content/000445736.pdf [accessed 2017.1.26]

(3) ウェブサイトのアクセス解析は Google Analytics で取得した。新サイトのアクセス状況を 2016/11/16 から取得したため、2016/11/16～2017/1/15 の 2 ヶ月間を前年同期間と比較した。